

右方転移構文の情報構造とイントネーション

中川奈津子* 浅尾仁彦* 長屋尚典**

*京都大学 **ライス大学/東京大学

1. はじめに

本発表では、コーパスを用いて、情報構造とイントネーションの観点から日本語の右方転移構文 ((1), (2)) が使われる条件を考察する。本発表の主張は以下である;

- (i) 右方転移構文のイントネーションの違いにより右方転移構文を2種類に分類できる。
- (ii) イントネーションの上昇が1度の右方転移構文では後置要素が主題あるいは前提である。
- (iii) イントネーションの上昇が2つの右方転移構文では、後置要素に焦点が来てもよい。

- (1) 僕は嫌いなんだよ、こういうことは。 (福永武彦「第二の手帳」: 下線引用者。以
- (2) 本間にダメだね、君は。 (久野 1978:
まず7節で先行研究とその課題を指摘し、3,4節で本発表の分析を行う。5節はまとめである。

2. 先行研究とその課題

久野 (1978: 68) は右方転移構文の後置要素には(i), (ii)の性質があると述べている;

- (i) 話し手が最初、聞き手にとって、先行する文脈、或いは非言語的文脈から、復元可能であると判断して省略したものを、確認のため、文末で繰り返したのか、
- (ii) 補足的インフォメーションを表すもの

一方、高見 (1995a: 228; cf. 1995b: 60) は、復元不可能な情報が後置要素となり (i), (ii) の一般化に反する

- (3) のタイプの文を指摘した。高見は質問の答え・疑問詞などの焦点要素は後置できないという事実から (cf. (4), (5)) 後置要素は焦点ではないとし、後置要素の性質を (iii) の形に修正している;
- (iii) 主動詞の後ろに現れる要素は、焦点を表す要素以外のものに限られる。

- (3) 太郎は花子に買ってやったよ、10カラットのダイヤの指輪を。 (高見 1995a:
- (4) A: 太郎は花子に {#何を買ってあげたの?/ 何をしてあげたの?}
- B: 太郎は花子に買ってやったよ、10カラットのダイヤの指輪を。
- (5) *いちばんおいしいですか、どれが?

先行研究には2点の課題が残されている。第1に、前置要素に焦点があれば後置要素に焦点があっても容認可能である (cf. (6), (7)) ので、右方転移構文の後置要素の条件 (iii) に代わる基準が必要である。

- (6) A: え、太郎がいつどこに旅行に行ったの?
- B: ハワイに行ったらしいよ、この間。 (二重下線は
- (7) 山田焦点いつ旅行に行ったの、どこに?

第2の課題は、音声情報を考慮することである。音声情報は会話の情報構造を知る上で重要であるとされるが (cf. Chafe 1994)、従来は考慮されていない。右方転移構文においても、(1), (2) と (3) ではイントネーションの違いがある。(1), (2) ではイントネーションの上昇は1度である (このタイプを後置要素下降型と呼ぶ)。一方 (3) のタイプは、後置要素が復元不可能な情報である限り、前置要素・後置要素の各々においてイントネーションの上昇が必要である (このタイプを後置要素山型と呼ぶ)。(6), (7) はこのタイプに属し、後置要素山型であれば前置要素・後置要素ともに焦点となりうることを示唆している。

本発表では、右方転移構文の情報の状態と音声情報の関係を、コーパスを用いて調査する。

3. 調査

本発表では、日本語話し言葉コーパス (CSJ) の対話データの用例中、ハ・ガ・ヲの後にポーズがある例を収集し、その中から人手で右方転移構文を選んだ。次に、収集された右方転移構文の音声全て聞き、前置要素に対する後置要素について、イントネーションの上昇の有無を記録した。また、後置要素の情報の状態を、旧情報 (先行文脈において後置要素の表す指示対象が言及されている)、認定可能 (そ

旧情報 (先行文脈において後置要素の表す指示対象が言及されている)、認定可能 (その指示対象と関連する対象が言及されている: accessible: cf. Chafe 1994)、新情報 (まったく言及されていない) に分けて記録した。

4. 結果

3節の調査の結果、55例の右方転移構文が集まった。助詞ハを伴うものが34例 (ガ格・ヲ格のみ)、ガが19例、ヲが2例あった。右方転移構文の情報の状態によるイントネーションの分類は表1になった。結果はフィッシャーの正確確率検定で有意であった ($p < 0.05$)。

旧情報である後置要素はデフォルト (e.g. (9)) では下降型であるが、他の要因で山型になることがあると考えられる。他の要因とは、以下があげられる (1つの例に複数の要因が関わっている場合がある); 前の言及から時間がたっている (2例: (10)), 後置要素が節で長い (3例: (11)), 他

表1. 後置要素の情報の状態と音声 (調査結果)

情報の状態 (総数)	イントネーション	
	山型	下降型
旧情報 (45)	12	33
認定可能 (5)	2	3
新情報 (5)	4	1

他の要素も例(3例)(1)笑い(3例)(1)強(3例)例強 認定可能な例においても以上の要因によって音調が決まっていると考えられる。

(9) [講演ID: D04F0050]

L: どのくらいこう配ってどのくらい回収できるものなんですかこれは

(10) [講演ID: D01F0057] (54ターン前の話題に戻って)

L: でも凄い勇気でですねその方と本当に結婚なさるっていうのは

(11) [講演ID: D04F0050] (関東と関西の方言の使用に差があるかという話題で)

R: こういう差があるねっていうことは言えない状態でしたね関東の方は

情報の状態が新情報である後置要素は、山型である例が多かった。この典型的な例は (12) である。

(12) [講演ID: D03M0017] (どのような研究をしているかという話を聞いた後で)

L: 何となく分かりました、研究者人生が

5. まとめ

4節の結果は、右方転移構文の後置要素の情報構造とイントネーションのデフォルトの関係は、表2であることを示唆している。本発表の調査により、旧情報が後置された右方転移構文がト

表2. 後置要素の情報構造とデフォルトの音調

後置要素の情報の状態	イントネーション	文の焦点位置
旧情報	後置要素下降型	前置要素
認定可能	他の要因による	?
新情報	後置要素山型	前置要素と後置要

どの連続連続性が高さと現れるという仮説 (Givón 1983) を検証できる可能性があり、今後の課題といえる。

参考文献

Chafe, Wallace. 1994. *Discourse, Consciousness, and Time*. Chicago/London: CUP.

Givón, Talmy. 1983. *Topic Continuity in Discourse*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

久野暉. 1978. 『談話の文法』. 東京: 大修館.

高見健一. 1995a. 「日本語の後置文と情報構造」. In 高見(ed.) 『日英語の右方移動構文』: 149-165. 東京: ひつじ書房.

高見健一. 1995b. 『機能的構文論による日英語比較—受身文、後置文の分析—』. 東京: くろしお出版.

用語リスト

右方転移構文 (right dislocation sentence): 規範的な語順では述語の前にある要素が述語の後ろに現れる文。

情報構造 (information structure): 文を伝達機能という観点から分析する場合の概念の1つ。従来の新情報・旧情報という対立に加え、Chafe (1994) は「認定可能な情報」を提案した。彼によれば旧情報とは発話される以前に活性状態にあった情報であり、新情報とは活性状態になかった情報、認定可能な情報は半活性状態にあった情報である。